

## 発寒ひかり 保育園だより

2023年  
6月号

### 巻頭言

保育園関連の悲しい報道が聞こえる度に、保育園職員として、保護者の一人としても心が痛みます。

当園でも以前、「保育の専門職としてふさわしくない言葉の例（添付資料参照）」を基に「どのような関わりが子どもたちのためになるか」という研修を行いました。

例えば「早く片付けないと鬼が来るよ」という声掛けがあります。子どもは怖いのですぐに片付けるでしょう。しかし、その子は「怖いから片付ける」だけです。

「片付ける」という行動の中にも、物を持つ、所定の場所に置く、置くときの力加減…子どもたちの学びがたくさんあります。子どもたちが自ら学び、成長できるための関わりを考えると「片付けをして、次に〇〇をしよう」と見通しを持った声掛けも一つの方法としてあります。

また、「言い換え」も良く使います。「走らないでね」を「歩こうね」「触らないでね」を「見てようね」など、否定語ではない伝え方をすることで、子どもたちも理解しやすくなります。

研修や会議で関わりについて話し合うことで、自分の保育の振り返りとなり、子どもたちにとっての最善を再確認しています。

子どもの権利条約の4つの原則は「命を守られ成長できること」「子どもにとって最もよいこと」「意見を表明し参加できること」「差別のないこと」です。

子どもたちの権利を守り、自分らしく成長できるように、そして、保護者の方々に安心していただけるよう、私たち保育士も日々学び、子どもたちの毎日を大切に過ごしていきたいと思えます。

主任保育士 笛木菜未